

詳細検討対象種ごとの生息環境保全等調査結果

<補足>

1. (2) 法律、条例に基づく位置づけ

○法律に基づき指定されているもの以外は、すべて、県又は市町村の条例に基づくものである。

1. (3) レッドリスト

○本項では、環境省レッドリスト、IUCNレッドリスト、都道府県レッドリスト又はレッドデータブックにおけるランクをそれぞれ記載した。ランクを示す記号及びそれぞれの意味は下表のとおり。

○なお、一部の都道府県では下表右欄の例のとおり独自のランクを用いている場合がある。この場合、本項では、それぞれの独自のランクに当てはまるランクを示す記号を記載した。

ランクを示す記号	意味	都道府県独自のランクの例	
EX	絶滅	すでに絶滅したと考えられる種	
EW	野生絶滅	飼育下あるいは自然分布域の外側でのみ存続している種	
CR+EN	絶滅危惧 I 類	絶滅の危機に瀕している種	絶滅危惧種、絶滅寸前種、A ランク*
CR	絶滅危惧 IA 類	ごく近い将来野生での絶滅の危険性が極めて高い種	A ランク*
EN	絶滅危惧 IB 類	IA 類ほどではないが近い将来野生での絶滅の危険性が高い種	B ランク*
VU	絶滅危惧 II 類	絶滅の危機が増大している種	絶滅危惧増大種、絶滅危惧種、B ランク*、C ランク*
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。	希少種、C ランク*
DD	情報不足	評価するだけの情報が不足している種。	要注目種、要調査種、D ランク*

※A～Cのランクについては都道府県によって、当てはまるランクが異なる場合がある。本項で記載するにあたっては、いずれのランクに該当するのか精査の上記載した。

種名 アユモドキ

コイ目ドジョウ科

学名 *Parabotia curtus*

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長 15~20cm。ドジョウ類に近縁だが、頭部と胸部が側偏し、尾びれの後縁は深く切れ込む。直線部で基部背縁に小棘を持つ眼下棘がある。口ひげは3対。背から体側部は黄褐色で腹部は乳白色。尾びれ基底中央に一つの黒色斑がある。体側に暗色黄帯が7~11個あり、成長とともに不明瞭となる。



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

国内希少野生動物種（種の保存法）、国指定天然記念物（文化財保護法）

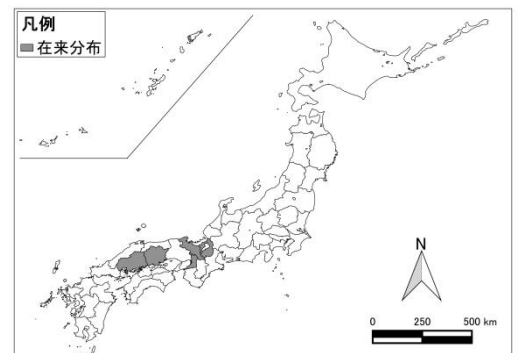
野生生物保全条例指定種：京都府

(3) レッドリスト

環境省	CR	都道府県	EX（広島県）、CR+EN（滋賀県、京都府、大阪府、岡山県）、
IUCN	CR		DD（奈良県）

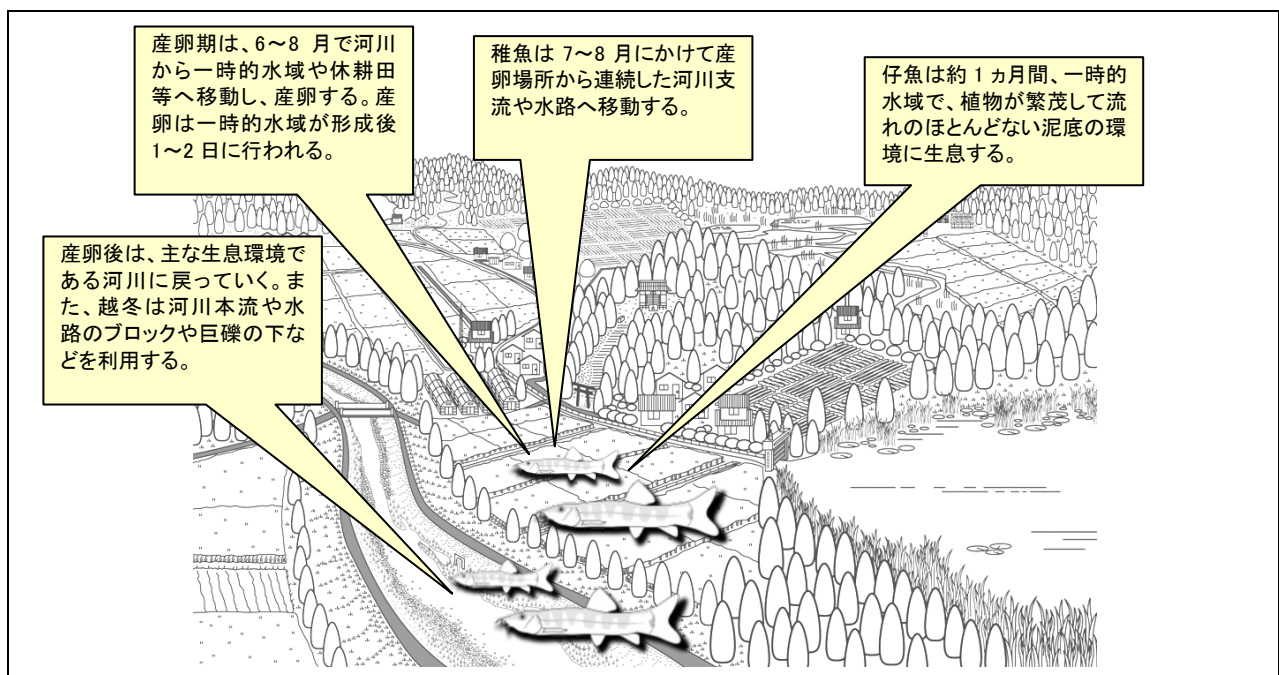
2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	現在毎年繁殖が確認されているのは、岡山県の2か所、京都府の1か所、計3か所の個体群のみとなっている ¹ 。
個体数の変化	京都府の個体群については、1,000個体以下と推定されており、将来予測においても個体群が脆弱であることが示唆されている ² 。岡山県の2つの個体群についてもそれぞれ1,000個体程度と推定されている ³ 。



アユモドキ分布図

3. 生活史及び生息環境



生息環境	
仔稚魚	一時的水域や休耕田等の植物が繁茂し、流れのほとんどない泥底の環境を隠れ家や餌生物供給源として利用する。一時的水域は低酸素となることがある不安定な環境であるが、適応し利用している。遊泳力が低いため、泥底のような止水環境を利用する ^{4, 5, 6} 。
未成魚期	成長に伴い、一時的水域から移動し、河川支流や水路を生息環境として利用する。隠れ家として巨礫の下や石垣の間隙などを好んで利用する。生活排水の流入や農薬などによる水質汚濁によって影響を受ける ^{4, 5} 。
成魚期	河川支流や水路を生息環境として利用する。隠れ家として巨礫の下や石垣の間隙などを好んで利用する。生活排水の流入や農薬などによる水質汚濁によって影響を受ける ^{4, 5} 。
繁殖期	河川から河川支流、水路へ移動し、降雨等による水位の上昇とともに産卵のために一時的な水域や休耕田等へ移動する。移動した成魚は、増水によって新たにできた氾濫原環境の植物が茂った場所においてばらまき型で産卵を行う ⁶ 。産卵後、成魚はふたたび河川支流や水路へ移動する ^{4, 5} 。

4. 保全活動

活動主体	主な取り組み内容
国	文化庁：天然記念物に指定。 環境省・農林水産省・国土交通省：アユモドキ保護増殖事業計画に基づき、生息地周辺に生息する外来種（オオクチバス等）の駆除、密漁監視のためのパトロール、その他生息環境の改善を実施。
都道府県	京都府：野生生物保全条例指定種に指定。アユモドキ保全回復事業計画を策定。 大阪府：水生生物センターにて人工受精による繁殖の試験・研究を実施。
市町村	岡山市：アユモドキの生息に配慮した工事実施マニュアルを策定。
地域住民	岡山市の生息地：地域住民が生息環境の維持活動などを実施。
保護団体等	NPO 法人岡山淡水魚研究会：岡山県の旭川水系にある休耕田を借り上げ産卵場所の創出及び維持管理を実施。 http://fields.canpan.info/organization/detail/1567631146 NPO 法人亀岡人と自然のネットワーク：亀岡の生息地にて休耕田に魚道を設置、産卵場所の設置や外来魚駆除（オオクチバスなど）を実施。 http://ayumodoki.net/katudouhoukoku.html

5. 主な参考文献

- 岩田明久（2015）アユモドキ。環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp50-51, ぎょうせい, 東京.
- 渡辺勝敏ほか（2014）琵琶湖・淀川水系のアユモドキ個体群の存続可能性分析. 魚類学雑誌 61 : 69-83.
- 湯浅卓雄（2005）アユモドキ産卵生態の解明と産卵場の創出-希少淡水魚の現在と未来-積極的保全のシナリオ-pp177-185, 信山社, 東京.
- 岩田明久（2006）アユモドキの生存条件について水田農業の持つ意味. 保全生態学研究, 11:133-141.
- 阿部 司（2012）アユモドキ (*Parabotia curta*) の氾濫原環境への適応と繁殖場所の保全・復元. 応用生態工学, 15 : 243-248.
- Abe, T et al. (2007) Spawning behavior of kissing loach (*Leptobotia curta*) in temporary waters. Zool Sci 24:850-853.

種名 オオガタスジシマドジョウ
学名 *Cobitis magnostriata*

コイ目ドジョウ科

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長はオス7~8cm、メス8~10cmで名前のおりスジシマドジョウ類で最も大型となる。繁殖期、非繁殖期ともにスジシマドジョウの特徴である体側の縦条は完全。胸びれから腹びれまでの筋節数が約14本である。尾びれ基部の斑紋は、連続した模様を呈す。口ひげは3対¹。

同所的に生息するビワコガタスジシマドジョウと似るが、より大型になること、筋節数が異なることなどから識別が可能である¹。



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

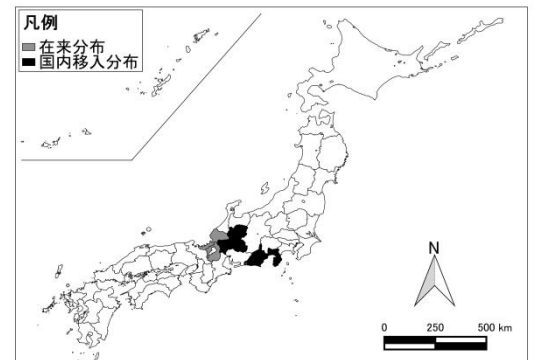
特になし。

(3) レッドリスト

環境省	EN	都道府県	CR+EN (滋賀県)
IUCN	—		

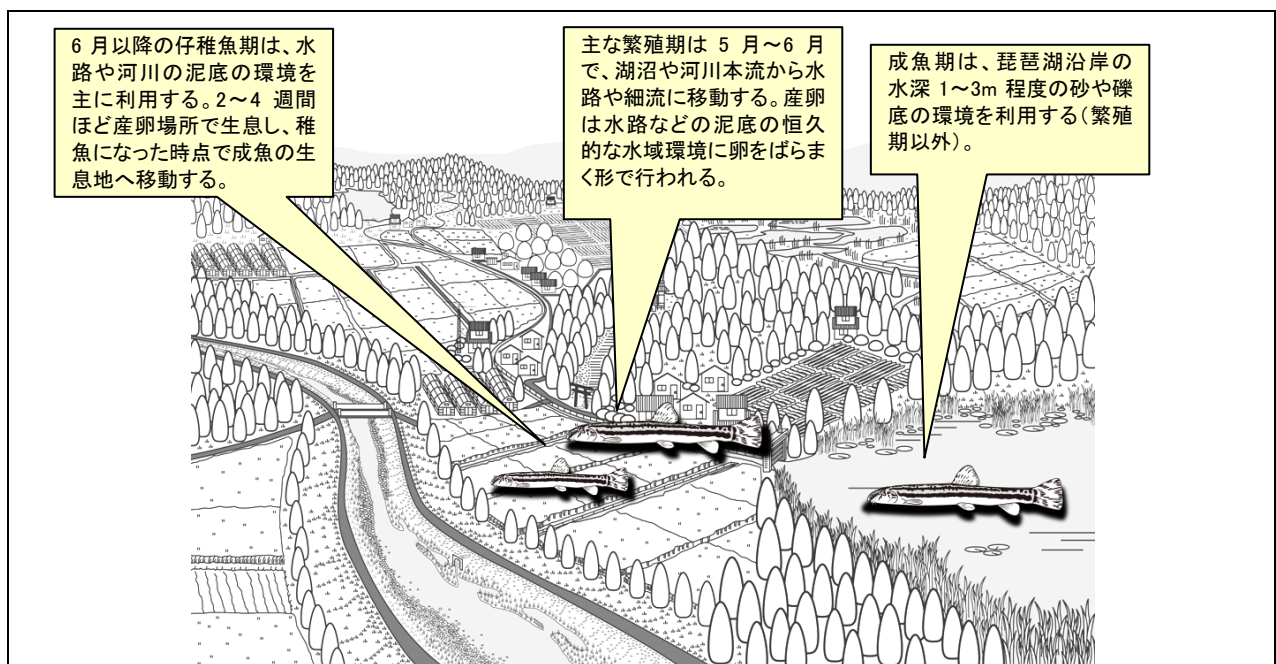
2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	琵琶湖沿岸域や流入河川・水路に広く生息していたが、現在はそれらのうち限られた水域のみで確認されている ¹ 。また、福井県の三方湖からも報告があるほか、移入された個体が岐阜県や静岡県等でも確認されている。
個体数の変化	個体数については具体的な情報がなく、詳細は不明である。



オオガタスジシマドジョウ分布図

3. 生活史及び生息環境



生息環境	
仔稚魚	流入河川や水路・細流の泥底の恒久的水域を生息環境として利用する。泥底の中を隠れ家として利用している。スジシマドジョウ小型種群と比較すると、オオガタスジシマドジョウの仔稚魚は乾燥や酸欠のリスクが少ない環境で生育する ² 。
未成魚期	成長とともに河川や湖に移動し、砂底、礫底の環境を隠れ家や餌生物供給源として利用する ¹ 。
成魚期	砂底、礫底の環境を隠れ家や餌生物供給源として利用する ¹ 。
繁殖期	産卵のために湖から流入河川や水路などに移動する。産卵は、恒久的水域の泥底の環境において行われ、ばらまき型の産卵をする ¹ 。

4. 保全活動

活動主体	主な取組み内容
都道府県	滋賀県：琵琶湖にて外来種（オオクチバスなど）の駆除に関連する事業を実施。 滋賀県立琵琶湖博物館：系統保存を実施。
保護団体等	たかしま有機農業研究会：水田内ビオトープと魚道を設置。 高島地域みずすまし推進協議会：休耕田を活用した繁殖場所の整備、魚道の設置。

5. 主な参考文献

1. 金尾滋史（2015）オオガタスジシマドジョウ. 環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp180-181, ぎょうせい, 東京.
2. 斎藤憲治（2005）スジシマドジョウ種群. -高密度なのに、実は希少魚-. 希少淡水魚の現在と未来-積極的保全のシナリオ-, pp186-192, 信山社, 東京.

種名 ニゴロブナ

コイ目コイ科

学名 *Carassius buergeri grandoculis*

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長は最大で40cm程度。フナ類の中では体高、尾柄高が低いのが特徴である。頭部は吻が短く、腹面前縁の下あごあたりが角張った個体が多い。鰓耙数が54~74とフナ類の中ではゲンゴロウブナに次いで多い¹⁾。

琵琶湖固有亜種であり、名前の由来はゲンゴロウブナに似ることからニゴロブナ（似五郎鮒）とされたという説がある。



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

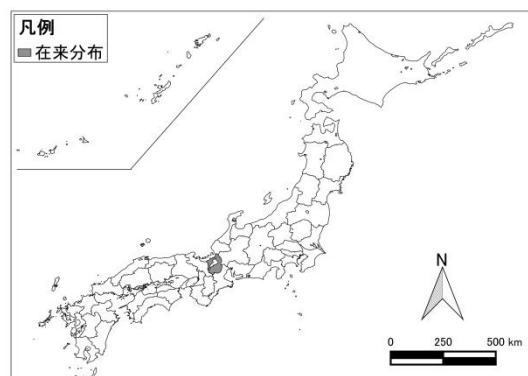
特になし。

(3) レッドリスト

環境省	EN	都道府県	NT（滋賀県）、DD（京都府）
IUCN	—		

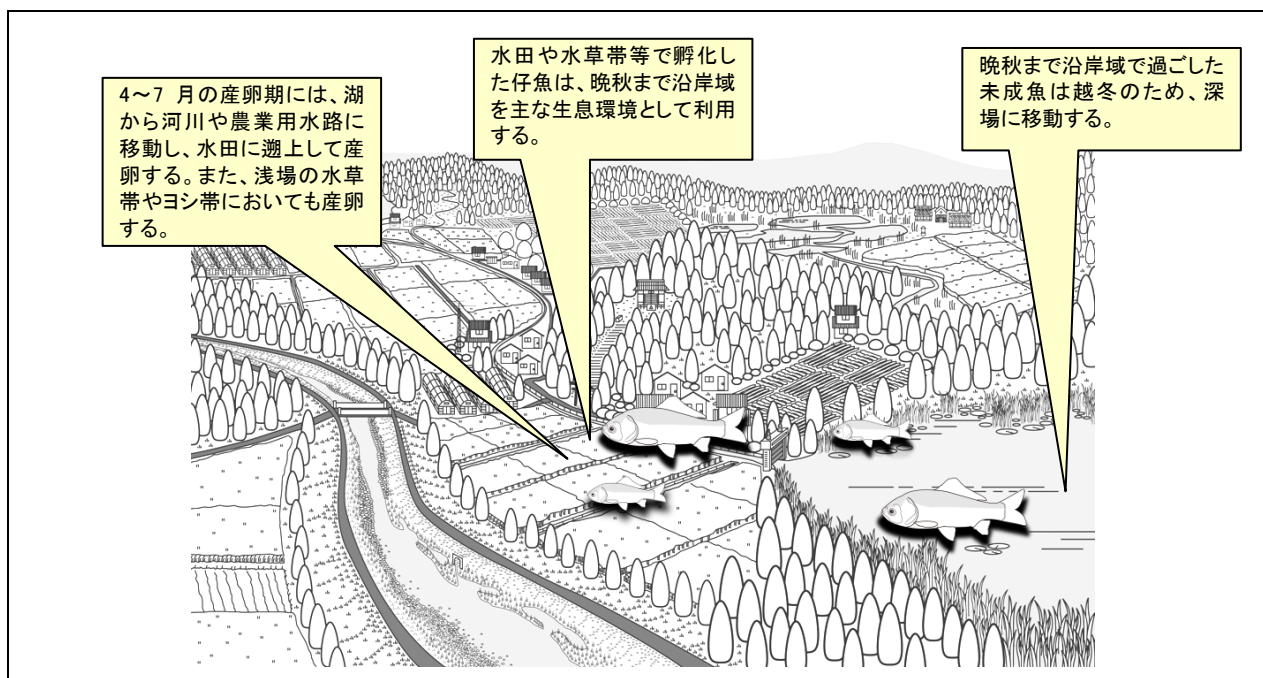
2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	琵琶湖とその流出河川（瀬田川、宇治川、淀川）および余呉湖に分布しており、分布状況に大きな変化はない ¹⁾ 。
個体数の変化	平成元年ごろには、琵琶湖におけるニゴロブナを含むフナ類の漁獲量が200トン程度あったが、一時18トン前後まで落ち込んだ。近年では50トン近くまで回復している。



ニゴロブナ分布図

3. 生活史及び生息環境



生息環境	
仔稚魚	餌生物供給源や隠れ家として、湖岸や内湖のヨシ帯などの水際植生帯を利用する ^{2,3} 。主に利用するヨシ帯は溶存酸素が低いことが知られ、そのような環境においても生息可能である。仔稚魚期は遊泳力が弱いため、止水環境を主に利用する。
未成魚期	成長とともに水際植生帯から移動し、琵琶湖沿岸から沖合にかけての低層付近を利用し、一部は湖の浅場や内湖、水路等にも生息する。冬期には、深場へ移動し越冬するが、富栄養化による深層水の循環の遅れ等が溶存酸素の低下をもたらし、生息に影響している可能性がある ⁴ 。
成魚期	琵琶湖沿岸から沖合にかけての低層付近を利用し、一部は湖の浅場や内湖、水路等にも生息する。冬期には、深場へ移動し越冬するが、富栄養化による深層水の循環の遅れ等が溶存酸素の低下をもたらし、生息に影響している可能性がある ⁴ 。
繁殖期	繁殖期には、湖内や内湖などの岸際の浅瀬に接岸するほか、水田などの一時的水域に遡上する。産卵は夜間に行われ、水草やヨシなど植物の根などに付着する卵を主に夜間に産卵する ¹ 。産卵後は再び水路や河川を通して湖に戻っていく。

4. 保全活動

活動主体	主な取り組み内容
国	水資源機構：琵琶湖周辺域の連続性確保（ビオトープの設置）やヨシの植栽。
都道府県	滋賀県：魚のゆりかご水田プロジェクト、ニゴロブナ放流事業、産卵場造成事業の実施。
地域住民	魚のゆりかご水田における生息環境整備、観察会等を実施。
民間	滋賀銀行：放流事業に対する寄付を実施。

5. 主な参考文献

1. 前畑政善 (2015) ニゴロブナ. 環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp156-157, ぎょうせい, 東京.
2. 金尾滋史ほか (2009) ニゴロブナ (*Carassius auratus grandoculis*) の初期成長の場としての水田の有効性. 日本水産学会誌, 75 : 191-197.
3. 藤原公一ほか (2011) 琵琶湖沿岸のヨシ帯におけるニゴロブナ (*Carassius auratus grandoculis*) の初期生態とその環境への適応. 日本水産学会誌, 77: 387-401.
4. 藤岡康弘 (2013) 琵琶湖固有(亜)種ホンモロコおよびニゴロブナ・ゲンゴロウブナ激減の現状と回復への課題. 魚類学雑誌, 60: 57-63.

種名 ミヤコタナゴ
学名 *Tanakia tanago*

コイ目コイ科

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長3~4cm。側線は不完全で、前方の鱗5~7枚に見られる。背条間膜には長楕円形の黒色斑が並ぶ。口ひげは短い。産卵期のオスは、体側が紫色、腹びれ・尻びれが朱色と黒、背びれ上端が白くなる婚姻色を示す。メスの産卵管は、伸長時に尾びれ末端程度に達する。



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

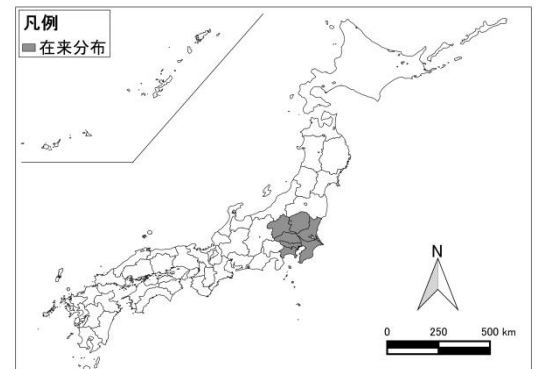
国内希少野生動物種（種の保存法）、国指定天然記念物（文化財保護法）

(3) レッドリスト

環境省	CR	都道府県	EX（群馬県、東京都）、EW（埼玉県、神奈川県）、CR+EN（栃木県）、CR（千葉県）、DD（茨城県）
IUCN	VU		

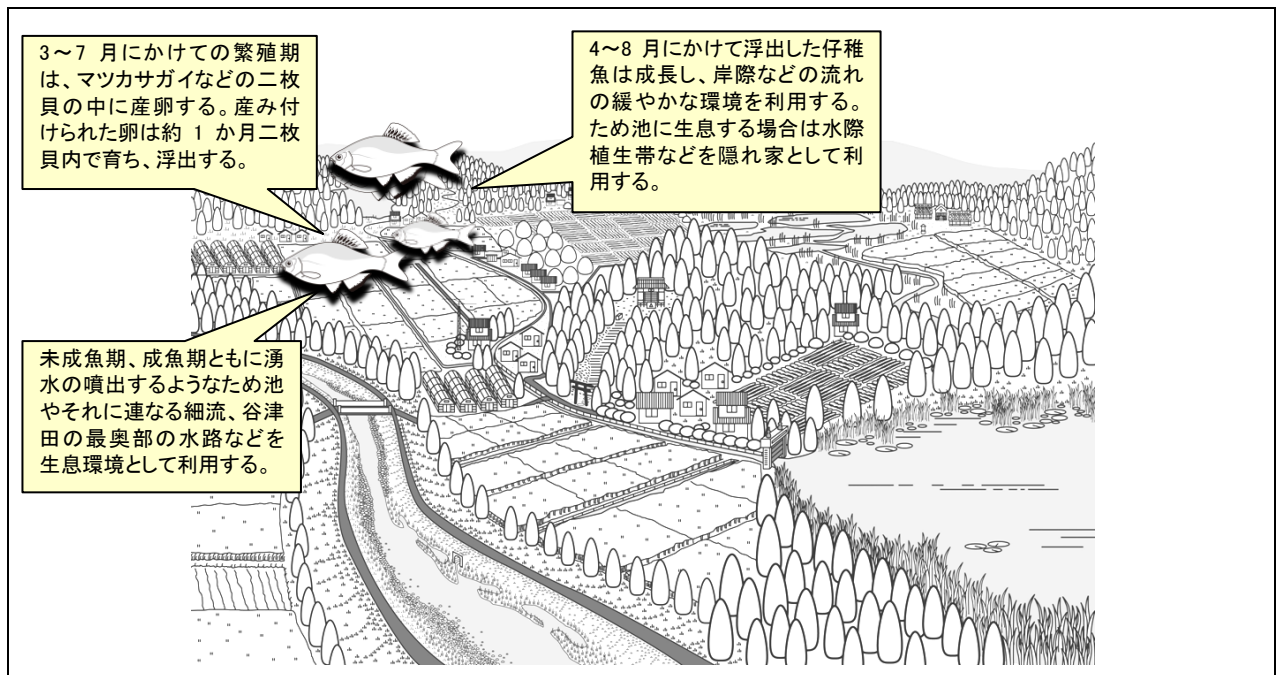
2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	かつては栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県に生息していたが、現在は栃木県に数か所、千葉県に10か所に満たない程度と非常に限定されている。
個体数の変化	残存しているいずれの生息地も谷津田の細流が主であり、200個体以下と推測されている ¹ 。このため、生息地全域でも数千個体程度と危機的状況にあると考えられる ¹ 。



ミヤコタナゴ分布図

3. 生活史及び生息環境



生息環境	
仔稚魚	流速が緩やかで水深が深い場所を生息環境として利用し、水際植生や水中に植生がある場所を隠れ家として利用する。湧水が流入するような谷津田等の水路上流部やため池など水質が良い環境に生息する。遊泳力が弱いので、流速が緩やかな場所を利用する ² 。
未成魚期	谷津田等にある、湧水の噴出する細流や水路、ため池等を生息環境として利用し、隠れ家としてヨシなどの植物が水際に繁茂した水路やため池を利用する。湧水が流入するような谷津田等の水路上流部やため池など水質が良い環境に生息する。主に水路のやや流れがある環境を利用するが、ため池のような止水域も利用する ^{3,4} 。
成魚期	同上。
繁殖期	水路やため池に生息しているマツカサガイなどのイシガイ科二枚貝を産卵基質として利用する。餌生物供給源として水際植生を利用する。湧水が流入するような谷津田等の水路上流部やため池など水質が良い環境に生息する。主に水路のやや流れがある環境を利用するが、ため池のような止水域も利用する。

4. 保全活動

活動主体	主な取組み内容
国	文化庁：天然記念物に指定。 環境省：国内希少野生動物種に指定。羽田ミヤコタナゴ生息地保護区を指定。
都道府県	栃木県：系統保存事業、生息状況調査、普及啓発を実施。 千葉県：系統保存事業、生息状況調査、普及啓発を実施。 埼玉県：系統保存事業を実施。 神奈川県：系統保存事業を実施。
市町村	御宿町：生息環境の整備を実施。 矢板市：生息環境の保全事業を実施。 滑川町：系統保存事業を実施。
地域住民	栃木県大田原市親園：生息環境の整備などを実施。 栃木県大田原市羽田 ⁵ ：生息環境の整備などを実施。
保護団体等	羽田ミヤコタナゴ保存会：生息環境の整備、密漁の監視。 御宿町ミヤコタナゴ保存会：系統保存、生息環境の整備。
民間	観音崎自然博物館：系統保存や生息地調査を実施。

5. 主な参考文献

- 河村功一（2015）ミヤコタナゴ。環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp26-27, ぎょうせい, 東京。
- 綱川孝俊ほか（2012）栃木県南東部の自然生息地におけるミヤコタナゴ保全への取り組み-ミヤコタナゴ稚魚の生息環境評価と環境改善-。応用生態工学, 15 : 249-155。
- 尾田紀夫(2005)ミヤコタナゴ-オシヤラクブナと呼ばれる美しい魚- 希少淡水魚の現在と未来-積極的保全のシナリオ-, pp168-176, 信山社, 東京。
- 望月賢二（1997）ミヤコタナゴ。よみがえれ日本産淡水魚。日本の希少淡水魚の現状と系統保存。pp64-75。
- 深田陽平ほか（2015）天然記念物ミヤコタナゴの保全に向けた取り組み。宇都宮大学教育学部教育実践紀要, 1 : 225-228。

種名 ゼニタナゴ

コイ目コイ科

学名 *Acheilognathus typus*

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長 8cm 程度、大型個体は 10cm を超える。産卵期が秋、染色体数が $2n=44$ などイタセンパラに近縁である。口ひげはない。鱗がきわめて細かく縦列鱗数は 50 以上である。側線は不完全。オスの婚姻色は頭部および体側面は紫紅色で鰓蓋から体側後方にかけて鮮紅色ないし茜色を示す。雌の産卵管は黒色で伸長すると尾びれを超える¹。



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

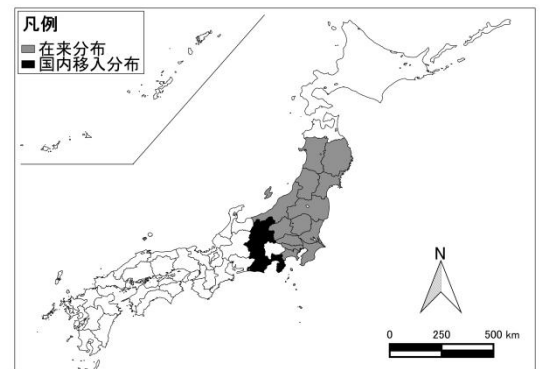
天然記念物：岩手県、特定希少野生動物種：福島県

(3) レッドリスト

環境省	CR	都道府県	EX (群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、新潟県)、EW (神奈川県) CR+EN (岩手県、宮城県、福島県)、CR (秋田県、山形県、茨城県)
IUCN	—		

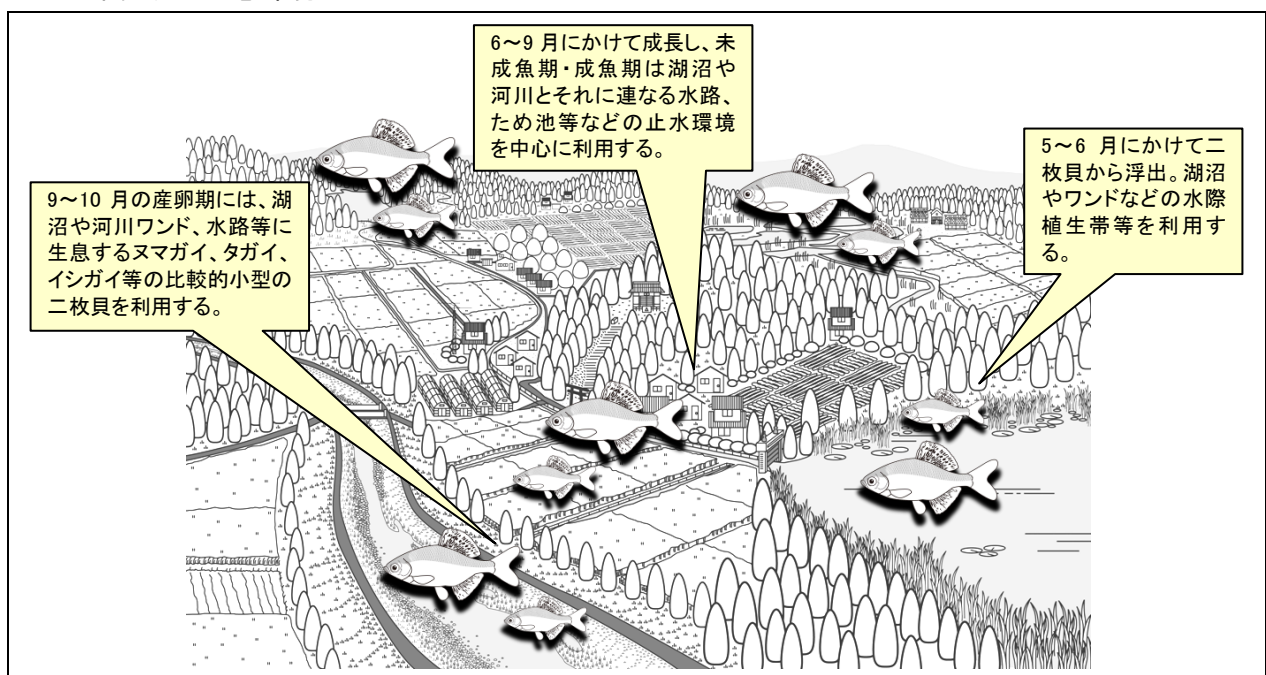
2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	青森県を除く神奈川県以北の太平洋側と新潟県以北の日本海側に自然分布。長野県諏訪湖および天竜川水系に移入され定着している。現在の確実な分布は、岩手県、秋田県、宮城県、福島県に限られ、関東地方はほぼ絶滅状態である ¹ 。
個体数の変化	本種が現在生息している環境はため池が中心であり、各生息地の個体数は数百～数千個体と推察されるが、詳細は把握されていない ¹ 。



ゼニタナゴ分布図

3. 生活史及び生息環境



生息環境	
仔稚魚	河川のワンドや湖沼・ため池等の止水域や水際植生帯を隠れ家として利用する。餌生物供給源としてワンドや水際植生帯を利用する。透明度が低く、富栄養化された水域にも生息する ¹ 。遊泳力が低いため、止水域を中心に利用する。
未成魚期	隠れ家として植生帯を利用する。餌生物供給源として水際植生帯等を利用する。透明度は低く、富栄養化された水域にも生息する ¹ 。ため池、河川、湖沼、水路等の止水域を中心に利用する ^{2,3,4} 。
成魚期	隠れ家として植生帯を利用するほか、越冬場所として湖沼や河川、水路の深みを利用する。餌生物供給源としてワンドや水際植生帯を利用する。透明度が低く、富栄養化した水域にも生息する ¹ 。ため池、河川、湖沼、水路等の止水域を中心に利用する ^{2,3,4} 。
繁殖期	湖沼や河川、ため池、ワンドなどに生息するドブガイ類などのイシガイ科二枚貝を産卵基質として利用する。餌生物供給源としてワンドや水際植生帯を利用する。透明度は低く、富栄養化された水域にも生息する ¹ 。ため池、河川、湖沼、水路等の止水域を中心に利用する ^{2,3,4} 。

4. 保全活動

活動主体	主な取り組み内容
都道府県	岩手県：天然記念物に指定。 秋田県：ゼニタナゴの生息地を自然環境保全地域に指定を検討。 宮城県伊豆沼・内沼財団：生息状況調査や生息地復元を実施。 滋賀県立琵琶湖博物館：霞ヶ浦産個体群の系統保存。 神奈川県水産技術センター内水面試験場：神奈川県産個体群の系統保存。
市町村	秋田市大森山動物園：潮曳瀧に生息するゼニタナゴの保全活動を実施。 http://www.city.akita.akita.jp/city/in/zoo/about/zenitanago/zenitanago.htm
地域住民	矢沢地域（岩手県花巻市）の地域住民：生息環境保全や普及啓発活動。
保護団体等	秋田淡水魚研究会：生息状況調査や生息環境保全活動。 矢沢地域の自然保護を考える会：生息環境保全や普及啓発活動。 NPO 法人シナイモツゴ郷の会：生息環境保全や普及啓発活動。 NPO 法人蕪栗沼っこクラブ：生息環境保全や普及啓発活動。 宮城淡水魚保全会：生息環境保全や普及啓発活動。 霞ヶ浦市民協会・土浦の自然を守る会：霞ヶ浦産個体群の系統保存 ゼニタナゴ研究会：生息状況調査や環境改善、普及啓発活動
民間	アクアマリンふくしま：福島県個体群の系統保存

5. 主な参考文献

1. 杉山秀樹（2015）ゼニタナゴ. 環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp26-27, 東京.
2. 藤本泰文ほか（2012）ゼニタナゴ-ため池に残った平野の魚-, 魚類学雑誌, 59 : 78-82.
3. 勝呂尚之（2005）忘れられた里山の魚 ゼニタナゴ. 希少淡水魚の現在と未来-積極的保全のシナリオ-, pp133-141, 信山社, 東京.
4. 北村淳一（2008）タナゴ亜科魚類：現状と保全. 魚類学雑誌, 55:139-144.

種名 ニッポンバラタナゴ
学名 *Rhodeus ocellatus kurumeus*

コイ目コイ科

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長5cm程度。産卵期は春から秋。口ひげはなく、体側上には暗青色の縦帯が存在する。側線は不完全で側線有孔鱗数は0～5（0の個体が多い）。オスの婚姻色は全体が赤褐色を帯び、腹部外縁と腹びれは黒色になる。メスの産卵管は伸長すると体長の二倍に達する。近縁種のタイリクバラタナゴと酷似するが、側線有孔鱗数（2～7）、腹びれ前縁部の白色縦帯の存在、婚姻色によりある程度識別が可能である¹。



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

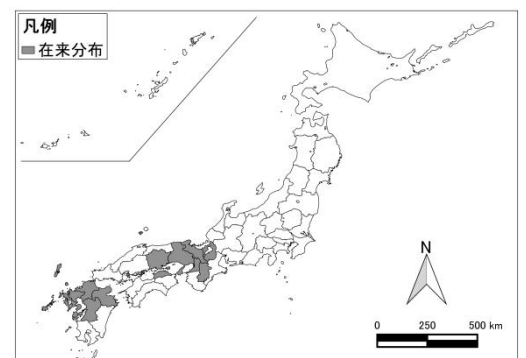
指定希少野生生物：香川県、特定希少野生動植物：奈良県、希少野生動植物種：長崎県（対象地域：佐世保市）

(3) レッドリスト

環境省	CR	都道府県	EX（滋賀県、京都府）、CR+EN（大阪府、奈良県、兵庫県、岡山県、香川県、佐賀県）、CR（長崎県、熊本県）、EN（福岡県）、DD（大分県）
IUCN	—		

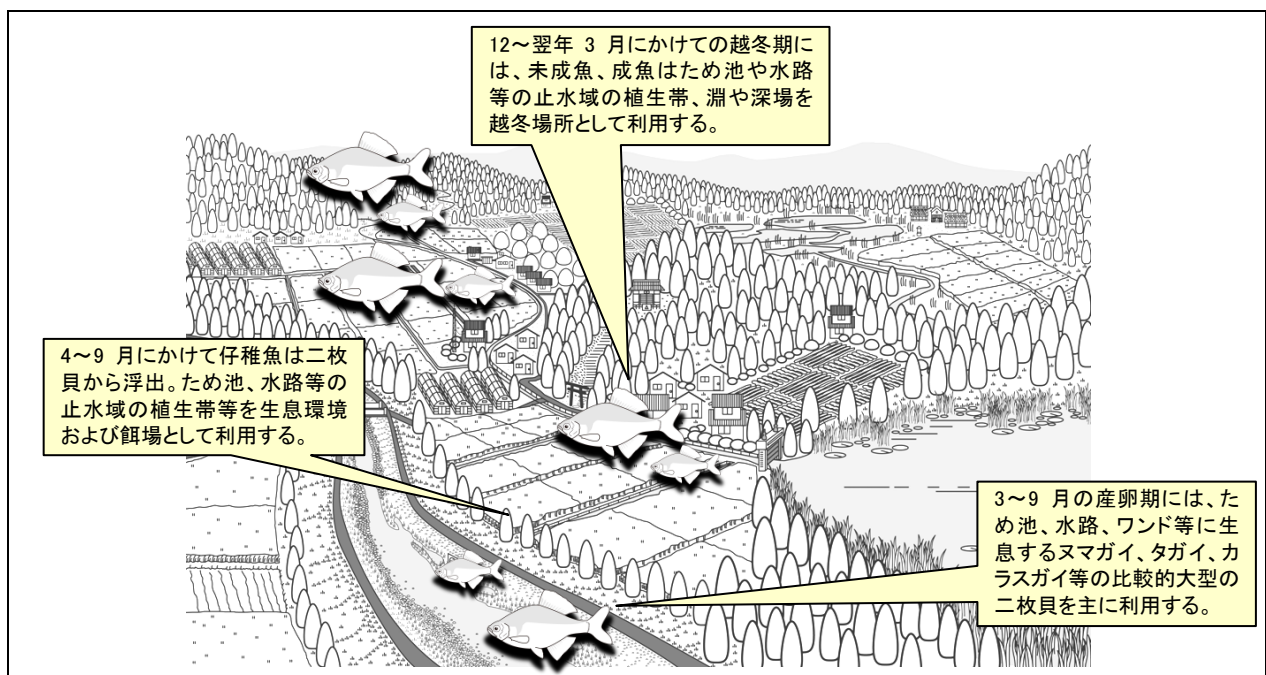
2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	関西地方から中国地方東部、四国北東部、九州北部に分布する。かつて琵琶湖・淀川水系は本亜種の代表的生息地であったが、本州、四国ではほとんどの個体群が絶滅し、現生息地はわずかである。九州北部でも分布域は確実に縮小している ¹ 。
個体数の変化	具体的な個体数は不明であるが、ため池の個体群は非常に少ないと考えられる。一方で、九州地方の河川や水路などでは比較的個体数の多い場所もあるが、個体数は減少している ¹ 。



ニッポンバラタナゴ分布図

3. 生活史及び生息環境



生息環境	
仔稚魚	ため池、水路等の浅場や水際植生帯を隠れ家や餌生物供給源として利用する。透明度が低く、富栄養化されたため池や水路、ワンド等の止水域も利用する ² 。
未成魚期	隠れ家や餌生物供給源としてため池、水路等の水生植物や水際植生帯を利用する。透明度が低く、富栄養化されたため池や水路等の止水域も利用する ² 。
成魚期	ため池、水路の水際植生帯も含めた水生植物を隠れ家として、ため池、水路等の深み(淵)を越冬場として利用する。水際植生帯等を餌生物供給源として利用する。透明度が低く、富栄養化されたため池や水路等の止水域も利用する ² 。
繁殖期	ため池、水路、ワンド等に生息するドブガイ類などのイシガイ科二枚貝を産卵基質として利用する。ため池、水路等の水際植生帯も含めた水生植物を隠れ家や餌生物供給源として利用する。水質については、透明度が低く、富栄養化された止水域も利用する ² 。

4. 保全活動

活動主体	主な取り組み内容
都道府県	滋賀県立琵琶湖博物館：系統保存。 奈良県：特定希少野生動植物ニッポンバラタナゴ保護管理事業。 香川県：ニッポンバラタナゴ保護事業。 http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/shizen/hogo_jyore/baratanago.htm 長崎県：条例により希少野生動植物種に指定。
市町村	佐世保市：生息状況調査、普及啓発活動。 北九州市：生息域内外での保全活動。 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所：分布調査と系統保存。 http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gi_jutsu/seika/hogo/
地域住民	清風中学校・高等学校生物部：保護活動と研究。 http://www.seifu.ac.jp/club/2287.html 奈良市立柳生中学校：系統保存。 福岡県立光陵高等学校うみがめクラブ：系統保存。 http://www.indicate.jp/koryo/topics4/topics.cgi?page=10 福岡県立北九州高等学校魚部：生息状況調査、保護活動。
保護団体	NPO 法人ニッポンバラタナゴ高安研究会：生息状況調査、環境改善、普及啓発活動。 香川淡水魚研究会：生息状況調査と系統保存。 http://www.purety.jp/fish/ かがわタナゴ倶楽部：保全活動。 http://archive.is/BjRh
民間	京都水族館：系統保存。 http://www.kyoto-np.co.jp/environment/article/20150218000083/print 海の中道海洋生態科学館：系統保存。 http://www.marine-world.co.jp/er/kankyo/02_ikimono/data/01_tanago.html 西海国立公園九十九島水族館海きらら：系統保存。

5. 主な参考文献

- 河村功一 (2015) ニッポンバラタナゴ. 環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp28-29, ぎょうせい, 東京.
- 加納義彦ほか (2005) ニッポンバラタナゴ外来種と隔離がもたらしたもの-. 片野修・森誠一編, 希少淡水魚の現状と未来-積極的保全のシナリオ-, pp112-132, 信山社, 東京.

種名 カワバタモロコ

コイ目コイ科

学名 *Hemigrammocypripis rasborella*

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長3～6cm。頭は小さく、口が斜め上方を向き、口ひげはない。側線は不完全。全体として黄色みを帯びており、背部は淡褐色で、頭部から背びれ基底にかけて暗色縦帯がある。体側と腹部は銀白色を呈する。目の後ろから尾柄に達する暗褐色の縦帯が体側中央に走る。



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

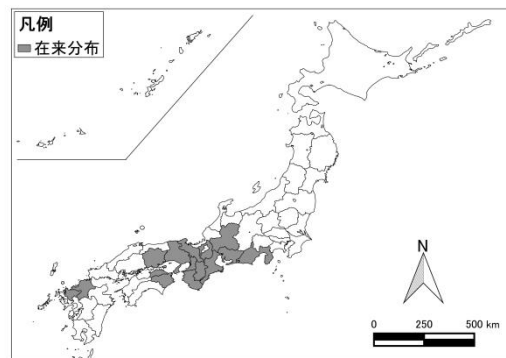
天然記念物：豊田市及び西尾市（愛知県）、希少野生生物：徳島県、指定希少野生動植物種：静岡県、三重県、岡山県、香川県

(3) レッドリスト

環境省	EN	都道府県	CR+EN（岐阜県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、香川県、佐賀県）、CR（静岡県、三重県、徳島県、福岡県）、EN（愛知県）、VU（奈良県）、DD（和歌山県）
IUCN	—		

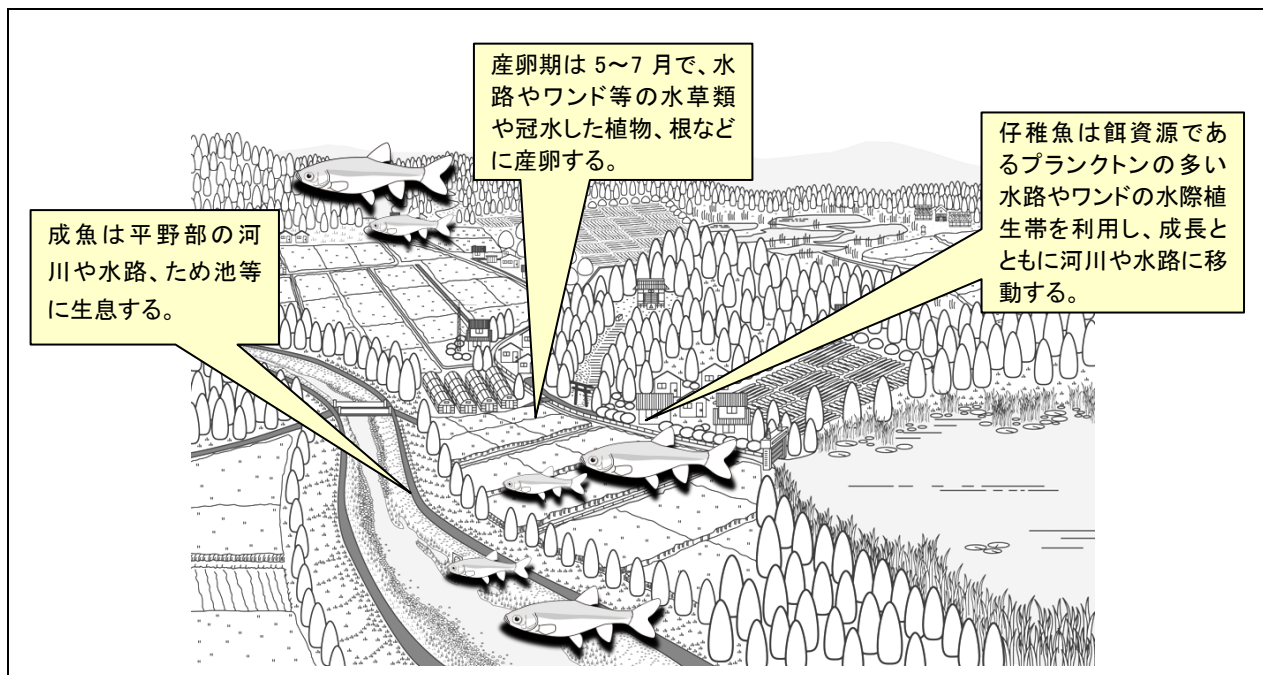
2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	広島県、山口県を除く静岡県瀬戸川以西の本州太平洋側の府県。四国は香川県と徳島県、九州は福岡県、佐賀県に分布する。和歌山県、愛知県、滋賀県などでは絶滅の恐れが高まっている ¹⁾ 。
個体数の変化	個体数については、いずれの生息地においても減少傾向にあるものと推測されるが情報はほとんどない。一方で、ピオトープ等への放流個体が数千個体まで増えている事例もある。



カワバタモロコ分布図

3. 生活史及び生息環境



生息環境	
仔稚魚	ため池や水路などの止水域を主に利用し、水際植生帯や沈水植物を隠れ家や餌資源供給源として利用する ¹ 。仔魚は孵化後数日間水底で横臥することから富栄養化がもたらす貧酸素によって影響を受け死亡率が増加する ² 。
未成魚期	平野部の河川や水路、ため池などの止水環境に主に生息し、とくに沈水植物が豊富な環境を餌生物供給源や隠れ家として好んで利用する ^{1,3} 。冬期の越冬場所は水深が深い場所を利用する ³ 。水質については、富栄養化により影響をうけることが示唆されている ¹ 。
成魚期	平野部の河川や水路、ため池などの止水環境に主に生息し、とくに沈水植物が豊富な環境を餌生物供給源や隠れ家として好んで利用する ¹ 。水質については、富栄養化により影響をうけることが示唆されている ¹ 。
繁殖期	平野部の河川や水路、ため池の水草や冠水した湿性植物を産卵基質として利用し、付着卵を産卵する。ため池、水路など流れの緩やかな止水域を主な産卵環境として利用する ¹ 。

4. 保全活動

活動主体	主な取組み内容
都道府県	滋賀県立琵琶湖博物館：系統保存の実施。 徳島県：鳴門市内の水路において基盤整備時に生息環境に配慮した水路構造や魚道の設置等実施。
市町村	愛知県豊田市・西尾市：天然記念物に指定。 岐阜県輪之内町：カワバタモロコ条例を制定し、生息地周辺の住民からなる保護員が捕獲監視等を実施。 神戸市：カワバタモロコ保全推進協議会を発足し、外来種（オオクチバスなど）駆除、池の底質改善や池干し等の維持管理等を実施。 岡山市：カワバタモロコを保護対象野生生物に指定し、自然保護活動推進員による保全活動や監視を実施。
地域住民	三重県中勢地方：生息地において地元住民によるため池の基盤整備と自然環境の改善の実施。
保護団体等	静岡淡水魚研究会による生息状況調査や生息環境維持を実施。 兵庫県・水辺ネットワーク：東播磨地域を中心に改修予定のため池から本種を救出、外来種（オオクチバスなど）駆除等の実施。 雨降る大地の水辺保全ネットワーク（おてらねっと）：大阪府石川流域のため池の外来種（アメリカザリガニ）の駆除や池干しを実施。
民間	株式会社ブリヂストン彦根工場：ビオトープにおける保護増殖および普及活動の実施。 株式会社キリンビール岡山工場：ビオトープにおける保護増殖および普及活動の実施。

5. 主な参考文献

1. 前畑政善 (2015) カワバタモロコ. 環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp168-169, 東京.
2. 中村守純 (1969) 日本のコイ科魚類. 資源科学研究所. 東京. 455pp.
3. Onikura et al. (2009) Habitat use in irrigation channels by the golden venus chub (*Hemigrammocypripis rasborella*) at different growth stages. Zool. Sci. 26:375-381.

種名 シナイモツゴ

コイ目コイ科

学名 *Pseudorasbora pumila pumila*

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長 8cm。側線は不完全で、有孔鱗数が 0~5 枚。シナイモツゴは頭部が大きく、尾柄が太く、体幅が厚い、モツゴは側線が完全であることなどからモツゴと識別ができる。体色は黒褐色であるが、繁殖期のオスは黒褐色に変色し、口吻にはなわばり争いのための追星が顕著に発達する。



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

天然記念物：青森県青森市（又八沼に生息するシナイモツゴ）、宮城県大崎市、鹿島台町、

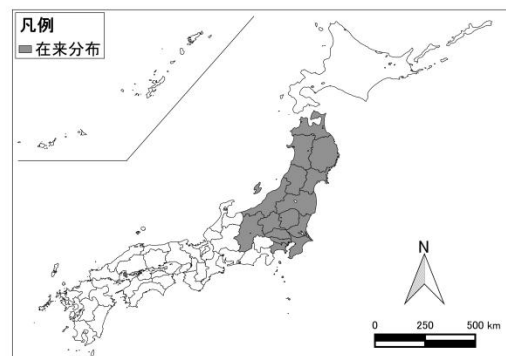
指定希少野生動植物種：長野県

(3) レッドリスト

環境省	CR	都道府県	EX（群馬県、埼玉県、東京都）、CR+EN（青森県、岩手県、宮城県、福島県）、CR（秋田県、山形県）、EN（長野県）、VU（新潟県）、DD（神奈川県）
IUCN	—		

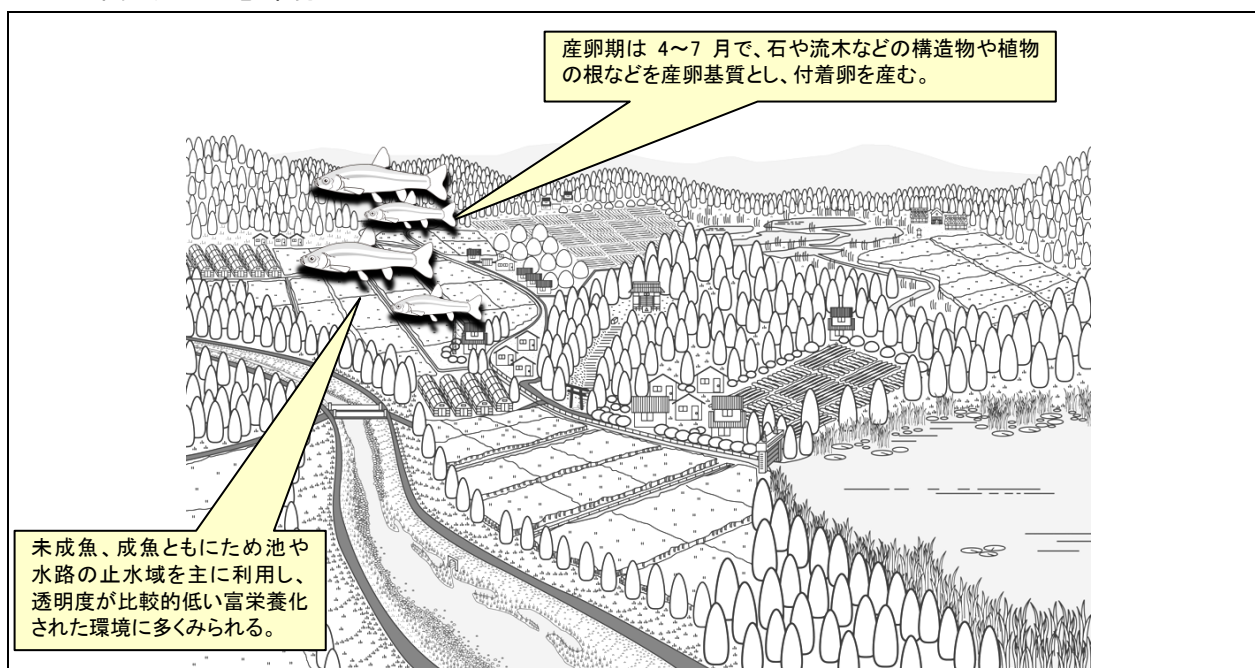
2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	本来の分布は太平洋側が関東地方以北、日本海側が長野県、新潟県以北であるが、関東地方では 1950 年代に絶滅したと考えられる ¹ 。東北地方においては、生息地の減少が著しい ² 。
個体数の変化	個体数の現状については、把握されていないが、本種の生息地として残されている環境はため池が主であり、個体数は少ないと考えられる。



シナイモツゴ分布図

3. 生活史及び生息環境



生息環境	
仔稚魚	仔稚魚の生息環境についての詳細は不明であるが、未成魚期、成魚期と同様に水生植物の多いため池や沼など止水域を利用する。隠れ家や餌生物供給源として、水際植生帯を利用すると考えられる ³ 。
未成魚期	水生植物の多いため池や沼などの止水域および、水路や細流で流れが比較的緩やかなところを生息環境とする。底生動物や付着藻類が多い岸際や腐植質が多い底の環境を餌生物供給源として利用する。透明度が比較的低く、富栄養化が進んだ水域にも多く生息する ¹ 。
成魚期	同上。
繁殖期	繁殖期は岸際などの環境を主に利用し、石や流木などの構造物や植物の根などに付着卵を産卵する。透明度が比較的低く、富栄養化が進んだ水域にも多く生息する。水生植物の多いため池や沼などの止水域の岸際を生息環境とする ¹ 。

4. 保全活動

活動主体	主な取組み内容
都道府県	長野県：保護回復事業計画の策定し、保全を進める予定としている。 http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/kensei/soshiki/shingikai/ichiran/kankyo/documents/151117shiryos3.pdf
市町村	青森市：又八沼に生息するシナイモツゴを天然記念物に指定。 大崎市：天然記念物に指定。
地域住民	長野市の生息地における地元小学校：教員等による生息地の巡回等を実施 ³ 。
保護団体等	シナイモツゴ郷の会：宮城県のため池等にて外来種駆除や池干し等の活動を実施、里親制度で地域の学校へ分譲。 ナマズの学校：宮城県にて小型水田魚道の開発・普及、外来種（オオクチバスなど）駆除や池干し等の活動を実施。

5. 主な参考文献

1. 杉山秀樹（2015）シナイモツゴ。環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp36-37, ぎょうせい, 東京.
2. 高橋清孝（1997）シナイモツゴ。長田芳和・細谷和海編, よみがえれ日本産淡水魚。日本の希少淡水魚の現状と系統保存. pp104-113. 緑書房, 東京.
3. 小西蘭（2010）シナイモツゴ：希少になった雑魚を守る。魚類学雑誌, 57: 80-83.

種名 キタノメダカ

ダツ目メダカ科

学名 *Oryzias sakaizumii*

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長4 cm程度。形態はミナミメダカと類似するが、体側面後方の黒色素胞が濃く網目状になる点やオスの背びれの欠刻が浅い点で見分けることができる。



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

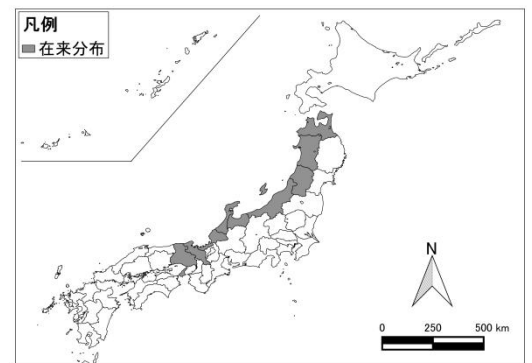
特になし。

(3) レッドリスト

環境省	VU	都道府県	VU (青森県、秋田県、福井県、京都府、)、NT (新潟県、富山県)、 DD (山形県、兵庫県) ※メダカとして指定している自治体がある。
IUCN	—		

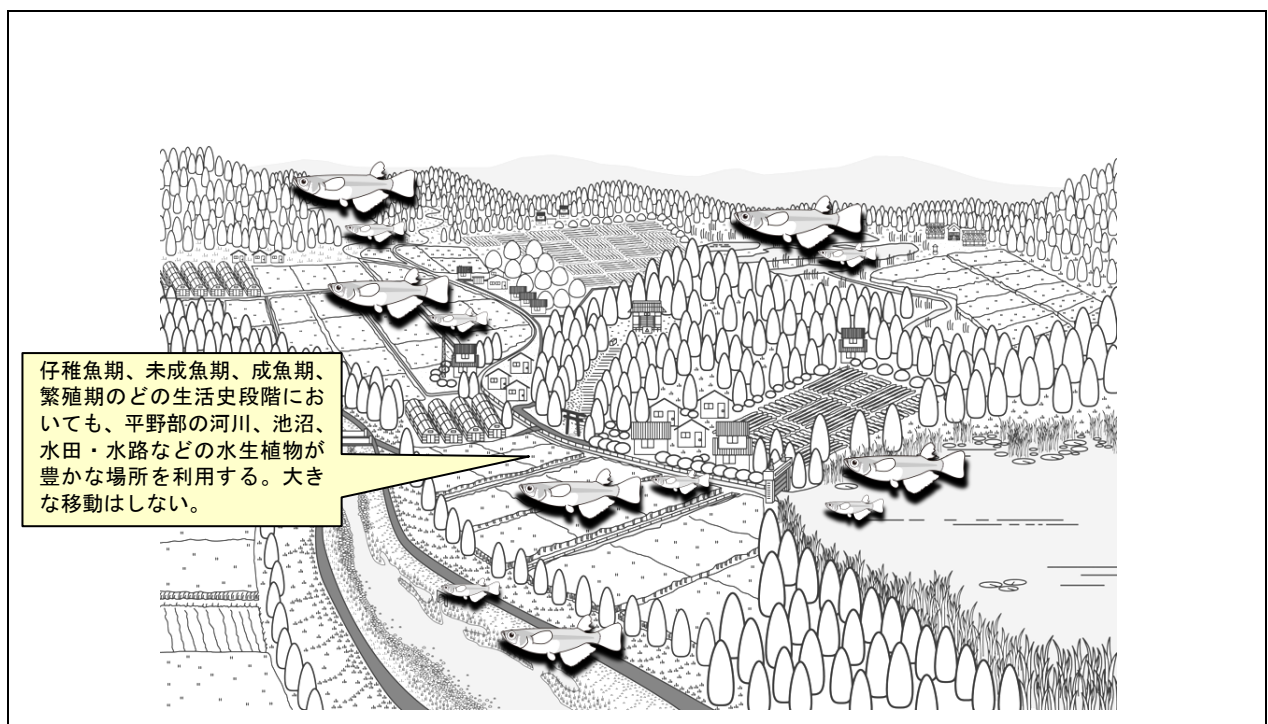
2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	兵庫県以北の日本海側の各県に分布するほか、青森県の太平洋側にも分布している。分布の変遷についての情報は無いものの、生息地は縮小傾向にあると考えられる ¹⁾ 。
個体数の変化	個体数についての情報は無いものの、生息地が縮小していることや分断化・局所絶滅が進行していることを考えると減少にあると推測される ¹⁾ 。



キタノメダカ分布図

3. 生活史及び生息環境



生息環境	
仔稚魚	未成魚、成魚とほぼ同様の環境を利用するが、仔稚魚は特に止水域を好む。時に、未成魚、成魚と混群で群れを形成することもある ² 。水質については、悪化が進んだ地点でも生息が可能であると考えられる。
未成魚期	河川、池沼、塩生湿地、水田・水路、ため池など多様な環境の止水域または流れが緩やかなところ（最大流速 20cm/s 程度） ² を利用する。水草が繁茂する環境を隠れ家や餌生物供給源として利用する。ミナミメダカの事例 ³ から水質悪化が進んだ地点でも生息が可能であり、生息環境としては水質よりも止水環境が重要であると考えられる。
成魚期	同上。
繁殖期	繁殖期の生息環境は、成魚期、未成魚期と大きくは変化しないが、水際植生帯周辺を利用する。沈水植物や植物の根などに付着卵を産卵する。水質悪化が進んだところでも生息が可能である。

4. 保全活動

活動主体	主な取組み内容
地域住民	家根合生態家保全活動センター：山形県家根合地区にてほ場整備時に地域住民による自主施行の保全池を設置し、草刈り・泥上げ・植栽等の維持管理を実施。

5. 主な参考文献

1. 細谷和海（2015）メダカ北日本集団。環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp294-295, ぎょうせい, 東京.
2. 端 憲二（2005）メダカはどのように危機を乗り越えるか。田んぼに魚をのぼらせる。154pp, 農文協, 東京.
3. 上月康則ほか（2000）都市近郊用水路網におけるメダカの生息環境要因に関する研究。環境システム研究, 28: 313-320.

種名 ミナミメダカ

ダツ目メダカ科

学名 *Oryzias latipes*

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長4～5cm。体は細長く、頭部は全端ではやや縦偏し、後方は概ね円筒形である。背びれは1基で尾部後方にあり、オスでは縁辺が大きく欠刻する。臀びれは、基底が長く、オスの鰭条はメスよりも長い。腹びれは小さい。キタノメダカに似るが、尾部の黒色素胞が明瞭な網目模様を作らず、オスでは背びれの欠刻が深いことで識別できる。

遺伝子解析の結果、9の地方集団に分けられている¹。



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

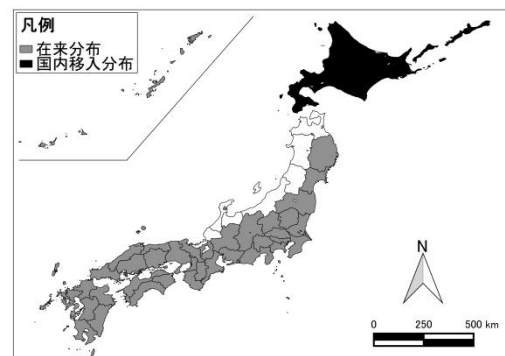
特になし。

(3) レッドリスト

環境省	VU	都道府県	CR+EN (東京都、鹿児島県 (琉球型))、CR (群馬県、神奈川県、沖縄県)、EN (千葉県、高知県、山口県)、VU (岩手県、栃木県、埼玉県、山梨県、長野県、静岡県、滋賀県、京都府、大阪府、和歌山県、鳥取県、徳島県、愛媛県、宮崎県)、NT (宮城県、福島県、茨城県、愛知県、三重県、奈良県、広島県、香川県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県 (薩摩型、大隅型))、DD (兵庫県)
IUCN	—		

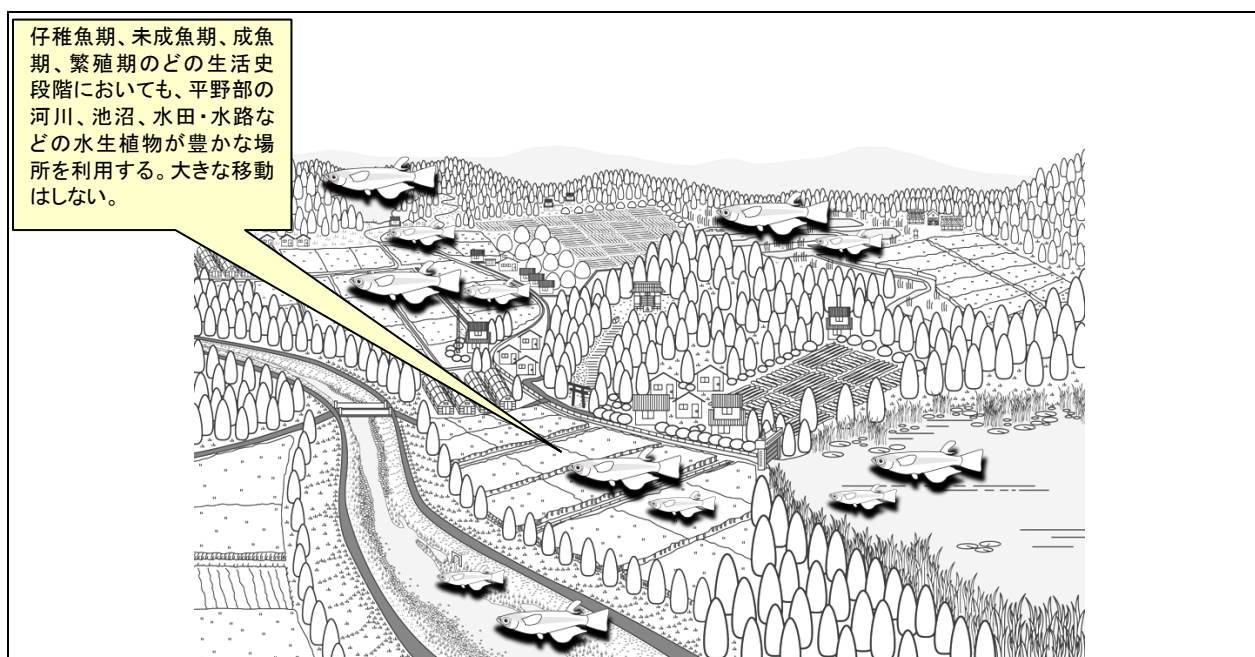
2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	本州では、日本海側では長野県 (千曲川水系)、京都府以西、太平洋側では岩手県以南の地域に分布する。四国、九州、琉球列島に分布。生息地の分断化や局所絶滅が進んでおり、琉球型、薩摩型、大隅型で著しい ¹ 。
個体数の変化	個体数についての情報はないものの、生息地が縮小していることや分断化・局所絶滅が進行していることを考えると減少にあると推測される ² 。



ミナミメダカ分布図

3. 生活史及び生息環境



生息環境	
仔稚魚	未成魚、成魚とほぼ同様の環境を利用するが、仔稚魚は特に止水域を好む。時に、未成魚、成魚と混群で群れを形成することもある ³ 。水質悪化が進んだ地点でも生息が可能である。
未成魚期	河川、池沼、塩生湿地、水田・水路、ため池など多様な環境の止水域または流れが緩やかなところ（最大流速 20cm/s） ³ を利用する。水草が繁茂する環境を隠れ家や餌生物供給源として利用する。水質悪化が進んだ地点でも生息が可能であり、生息環境としては水質よりも止水環境が重要である ⁴ 。
成魚期	同上。
繁殖期	繁殖期の生息環境は、成魚期、未成魚期と大きくは変化しないが、岸際植生帯周辺を利用する。沈水植物や植物の根などに付着卵を産卵する。水質悪化が進んだところでも生息が可能である ⁴ 。

4. 保全活動

活動主体	主な取組み内容
都道府県	東京都動物園協会：東京メダカの生息状況調査と系統保存。
地域住民	門崎ファーム：岩手県門崎地区のほ場整備時に、大学の協力を得ながら排水のための水路とメダカ水路を設置し、維持管理を実施。 長野県飯田市：冬期の越冬場所として水はり調整田を利用。
保護団体等	メダカ里親の会：栃木県内において生息地調査、生息地管理、繁殖放流活動、メダカ保護活動ガイドラインの作成等を実施。 http://www.japanriver.or.jp/taisyo/oubo_jyusyou/jyusyou_katudou/no4/no4_pdf/medaka.pdf 藤沢メダカの学校を作る会：生息環境改善や普及啓発活動を実施。 http://www.geocities.jp/fujisawamedaka/

5. 主な参考文献

1. 酒泉 満 (1990) 遺伝学的にみたメダカの種と種内変異. 江上信雄・山上健次郎・嶋昭紘編. pp143-161. メダカの生物学, 東京大学出版会, 東京.
2. 細谷和海 (2015) メダカ南日本集団. 環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp296-297, ぎょうせい, 東京.
3. 端 憲二 (2005) メダカはどのように危機を乗り越えるか. 田んぼに魚をのぼらせる. 154pp, 農文協, 東京.
4. 上月康則ほか (2000) 都市近郊用水路網におけるメダカの生息環境要因に関する研究. 環境システム研究, 28:313-320.

種名 ホトケドジョウ
学名 *Lefua echigonia*

コイ目ドジョウ科

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長8cm程度。体は細長く、背びれは腹びれとほぼ同様に後方の位置にある。吻は短く、目は大きい。口ひげの数は4対で、体とひれは茶褐色で黒点が散在する。近縁種のナガレホトケドジョウやホトケドジョウ属の1種（東海集団）とは生息環境や背びれ・尾びれの斑紋の有無で識別が可能である¹。

遺伝子解析の結果、北陸・東北・近畿・東海・北関東・南関東の6集団に分けられている¹



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

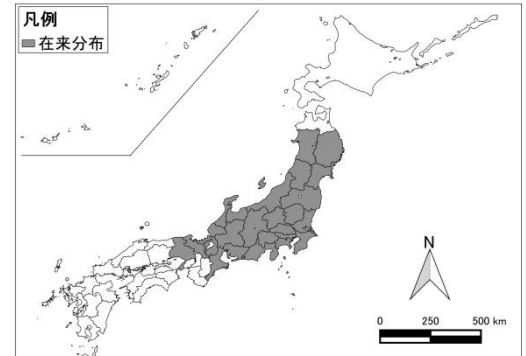
天然記念物：群馬県藤岡市

(3) レッドリスト

環境省	EN	都道府県	EX（富山県）、CR+EN（東京都（区部・北多摩）、福井県、京都府、兵庫県）、CR（秋田県）、EN（山形県、埼玉県、神奈川県、愛知県）、VU（茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都（南多摩、西多摩）新潟県、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、滋賀県）、NT（宮城県、岐阜県）、DD（福島県、奈良県）
IUCN	—		

2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	青森県を除く東北地方から南の本州に分布し、太平洋側は三重県、日本海側は兵庫県までである。
個体数の変化	生息地は隔離された小水域が多いため、小規模な開発でも影響が大きいこと、局所的な絶滅も進行していることから個体数についての情報は少ないが減少していると推測される ²



3. 生活史及び生息環境

繁殖期は3~9月で、水深が浅い湿地状の環境に生育する水草や植物の根等に産卵する。孵化した仔魚は成長に伴い、未成魚、成魚と同様の環境を利用する。

未成魚・成魚は通年で谷津田など湧水のある細流や湿原、水路などに生息する。流れの緩やかな落葉等が堆積した環境や砂泥底を利用する。冬期は湧水の影響が強い場所へ移動し越冬する。

生息環境	
仔稚魚	成長とともに流れの緩やかな浅い水域や湿地から流れのある水域に移動する。礫や落葉などの下を隠れ家として利用する。雑食性で底質内のユスリカ等の水生昆虫や石などに付着した藻類等を食べる ⁴ 。湧水が入り込む環境など水質が良い環境を好んで利用する。
未成魚期	湧水のある流れが緩やかな河川の源流や谷津田の水路、止水域の滞などを主に利用し、礫や落葉などの下を隠れ家とする。越冬場所として湧水が入り込む水温が高い環境を利用する ^{3,4} 。雑食性で底質内のユスリカ等の水生昆虫や石などに付着した藻類等を食べる ⁴ 。湧水が入り込む環境など水質が良い環境を好んで利用する。
成魚期	同上。
繁殖期	流れの緩やかな浅い水域や湿地で、水草や水中の陸上植物の根、落ち葉などに付着卵を産卵する ⁴ 。雑食性で底質内のユスリカ等の水生昆虫や石などに付着した藻類等を食べる ⁴ 。湧水が入り込む環境など水質が良い環境を好んで利用する。

4. 保全活動

活動主体	主な取組み内容
都道府県	栃木県：荒川南部地区のほ場整備において魚道を設置。 三重県：嘉例川地区においてほ場整備時にビオトープや魚道を設置。
市町村	神戸市須磨水族館：系統保存を実施。
地域住民	嘉例川地区：地域住民による湿性植物の植栽や草刈り等の活動を実施。
保護団体等	生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会：神奈川県生田緑地にてビオトープ（保護池）の維持管理、外来種（アメリカザリガニ）駆除等を実施。 丹波地域のホトケドジョウを守る会：神戸市立須磨水族館と連携して、生息環境調査や生息地造成、普及啓発活動を実施。
民間	株式会社東芝 京浜事業所：ビオトープにおける鶴見川水系ホトケドジョウの飼育。 http://www.toshiba.co.jp/env/jp/vision/biodiversity_j.htm#anchorLink7 株式会社トヨタ自動車：研究開発施設建設予定地の里山にて生息状況調査や普及啓発を実施。 https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/environment/blessings_of_nature/biodiversity/pdf/learning_04_all.pdf

5. 主な参考文献

1. Miyazaki, J.-I. et al 2011. Parallel evolution in eightbarbel loaches of the genus *Lefua* (Balitoridae, Cypriniformes) revealed by mitochondrial and nuclear DNA phylogenies. *Mol. Phylogenet. Evol.*, 60:416-427.
2. 勝呂尚之・細谷和海（2015）ホトケドジョウ. 環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp196-197, ぎょうせい, 東京
3. 守山拓弥ほか（2010）地下水を水源とする保全池における冬期のホトケドジョウ分布パターン. 魚類学雑誌, 57: 161-166.
4. 勝呂尚之（2005）谷戸の代表種 ホトケドジョウ. 片野修・森誠一編, 希少淡水魚の現状と未来-積極的保全のシナリオ-, pp50-60. 信山社, 東京.

種名 ハリヨ

トゲウオ目トゲウオ科

学名 *Gasterosteus aculeatus* subsp. 2

1. 基礎情報

(1) 分類・形態等

全長5～8cm。滋賀県産個体の方が岐阜県産個体よりも大型になる傾向がある。背びれの棘は3本である。体側の鱗板は胸びれ付近の体前部に限られ、5～7枚の個体が多い。繁殖期のオスは婚姻色を呈し、頭部下面から鰓ぶたにかけては朱色、体側は青色になる。イトヨとは体側の鱗板の位置や鱗板数が少ないことから区別できる¹⁾。



(2) 法律、条例に基づく位置づけ

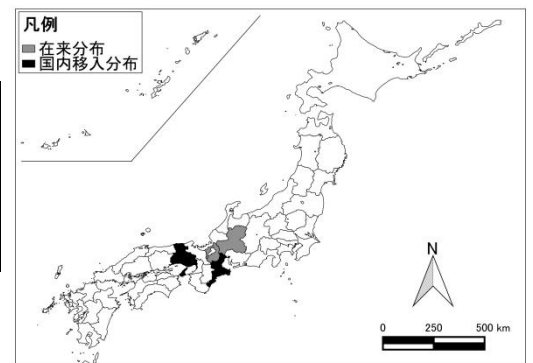
国指定天然記念物（津屋川水系清水池ハリヨ生息地）（文化財保護法）、天然記念物：岐阜県、希少野生動植物種：滋賀県（地藏川ハリヨ生息地保護区）

(3) レッドリスト

環境省	CR	都道府県	絶滅（三重県）、CR+EN（岐阜県、滋賀県）
IUCN	—		

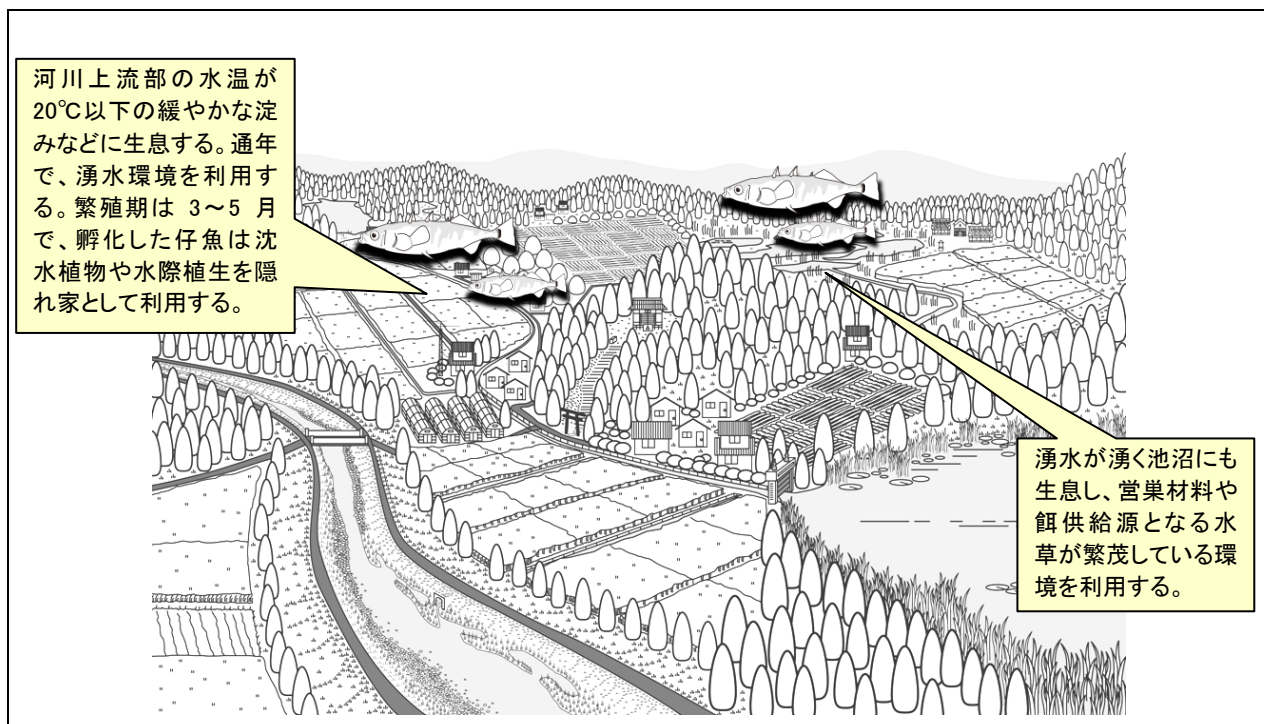
2. 分布及び生息状況とその変遷

分布状況 (右図)	岐阜県と滋賀県に分布する。国内移入が見られる一方で、在来分布区域内では減少傾向にある。
個体数の変化	いずれの生息地においても、生息地範囲の減少や局所化が進行しており、個体数の減少も著しい ¹⁾ 。



ハリヨ分布図

3. 生活史及び生息環境



生息環境	
仔稚魚	約 20 日間程度繁殖巣の中で過ごした仔魚は、巣から出た後、沈水植物や水際植生帯へ移動し、それらの環境を隠れ家や餌生物供給源として利用する ¹ 。湧水環境に生息し、湧水の供給量が生息環境条件として非常に重要である。
未成魚期	主に湧水域と本流域を生息環境として用いる。湧水域では、年中水温がほぼ一定である一方で、本流域では水温の年変動がある。どちらの環境においても水草や水際植生が隠れ家や餌生物供給源として重要である。
成魚期	同上。
繁殖期	繁殖期には、水草や落ち葉や枯れ枝等を用いて繁殖巣を水底に作り、その中に産卵する。営巣環境としては流速 15cm/s 以下の比較的緩やかな環境を好み、ワンドや入り江も利用する ¹ 。水温が 20℃以上になると繁殖活動が行われなくなるため、夏期の水温が 20℃以上になる本州においては湧水が必須となる ² 。

4. 保全活動

活動主体	主な取り組み内容
国	文化庁：津屋川水系清水池ハリヨ生息地を天然記念物に指定。 環境省：滋賀県米原市地蔵川の交雑個体群の除去と再導入の検討。
都道府県	岐阜県：天然記念物に指定。 滋賀県：希少野生動物植物種に指定。地蔵川ハリヨ生息地を保護区に指定。 滋賀県立琵琶湖博物館：系統保存。
市町村	岐阜県池田町：生息地の環境整備時に魚巣ブロックを使用するなどの配慮。
地域住民	岐阜県池田町生息地：地域住民が生息地周辺を清掃活動。 岐阜県立大垣東高校：理数科ハリヨ班が継続的なモニタリング調査と生息地維持活動を実施。 岐阜県大垣市周辺では地区ごとにハリヨを守る会があり、草刈り等の生息地維持活動を実施。 滋賀県守山市金森町：再導入生息地において生息環境維持やアメリカザリガニの駆除を実施。 http://www.kyoto-np.co.jp/environment/article/20150409000045 地蔵川とハリヨを守る会：生息環境維持活動を実施。
保護団体等	加賀野名水保存会：岐阜県大垣市にある生息地の水路や池の清掃、バイカモの植栽、外来種（アメリカザリガニ）の駆除等を実施。

5. 主な参考文献

1. 後藤 晃 (2015) ハリヨ. 環境省編「Red Data Book2014 汽水・淡水魚類 日本の絶滅のおそれのある野生生物」, pp62-63, ぎょうせい, 東京.
2. 森誠一 (2005) 世界南限のトゲウオ 湧水魚ハリヨ-. 片野修・森誠一編, 希少淡水魚の現状と未来-積極的保全のシナリオ-, pp73-85. 信山社, 東京.

